

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

85-126095/21	D21	RISU- 17.09.83	D(8-59, 9-E)	193
RISUBURAN PRODUCTS		*J6 0064-907-A		
17.09.83-JP-170574	(13.04.85)	A61k-07		
Stable aq. gel-form cosmetic compsn. - inducing no skin irritation in which gelation is effected using DNA alkali salt aq. soln. and an electrolyte				
C85-054809				
In a compsn. (I), its gelation is performed by adding 0.1-10 (0.5-5)% of an electrolyte such as a water-soluble neutral inorganic or organic salt to a 1-10 (3-6) % deoxyribonucleic acid alkali metal salt aq. soln.				
ADVANTAGE - (I) is stable at pH 4-8, induces no skin irritation and has excellent feel and spreadability. (2pp Dwg.No.0/0).				

© 1985 DERWENT PUBLICATIONS LTD.  
 128, Theobalds Road, London WC1X 8RP, England  
 US Office: Derwent Inc. Suite 500, 6845 Elm St. McLean, VA 22101  
 Unauthorised copying of this abstract not permitted.

Int. Cl.  
A 61 K 7/00

識別記号

庁内整理番号  
7306-4C

④ 公開 昭和60年(1985)4月13日

審査請求 有 発明の数 1 (全2頁)

⑬ 発明の名称 水性ゲル状化粧料

⑭ 特 願 昭58-170574

⑮ 出 願 昭58(1983)9月17日

⑯ 発 明 者 深 山 喬 柏市豊四季台1-1番13-206

⑰ 出 願 人 株式会社リスブランブ 横浜市港北区新吉田町4446番地  
ロククツ

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

水性ゲル状化粧料

## 2. 特許請求の範囲

デオキシリボ糖のアルカリ金属塩1~10%水溶液に水性  
の中性無機塩酸又は中性の有機塩などの電解質を0.1~10%  
添加してゲル化させることを特徴とする水性ゲル状化粧料。

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は、デオキシリボ糖塩類の水溶液に電解質を加えて  
透明な水性のゲル状基剤を作り、これに通常使用される有用  
性の化粧品用配合剤を加えた水性ゲル状化粧料に関する。  
化粧用ローションなど化粧水類の具備すべき条件としては、

1. 皮フを刺激せず、安全性が高いこと。
2. 容易に塗布でき使用感がよいこと。
3. 匂いがあり、使用時無臭に感じろたりしないこと。
4. 経時安定性及び温度安定性がよいこと。

しかし、これらの条件を満足する化粧品はほとんど市販さ  
れていない現状である。

現在市販されている水性ゲル状化粧品は、界面活性剤を多量  
に使用したもの、及び水性の高分子化合物を使用したもの  
が大部分である。

界面活性剤によってゲル化したものは、界面活性剤を多量に  
必要とするため、皮フに対する刺激など安全性に問題があり、  
また他の有効な配合剤の溶解、分散にも難点がある。

一方、水性高分子化合物によりゲル化したものは、使用感  
などに問題があり、更に電解質の混入により腐敗したり、

域に制限があるなど、処方決定の際に問題点が多い。

特に最近、化粧水類に動植物基原の天然の高分子化合物、  
例えばヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸など酸性ムコ多糖  
類を含む抽出エキスや、水溶性タンパク質、ポリペプチド、  
或いはステロイド化合物を含む植物抽出液などを有用な配合  
成分として使用する化粧料が増えてきており、これら製品は  
比較的高価になるため、真感をだす必要があるが、水性のゲ  
ル状化粧料として製品化する場合は、溶解性、分散性などで  
種々の問題点がある。

本発明者は、上記のような欠点をなくすべく研究した結果、  
化粧用配合成分としても非常に有用なデオキシリボ糖のアル  
カリ金属塩水溶液が塩化ナトリウムなどの電解質により容  
易に透明で硬度が自由に調整できるゲル状になることを発見  
し、これを基剤として酸性ムコ多糖類など他の有用な配合剤  
を加えて製品化することに成功した。

デオキシリボ糖のアルカリ金属塩としては、通常ナトリウ  
ム塩、カリウム塩が使用でき、水溶液の濃度は1.0~10%の  
範囲で、好ましくは3~5%がよい。

また、電解質としては、塩化ナトリウム、硫酸ナトリウム、  
塩化カリウム、硫酸カリウムなどが使用できるが、その他に  
化粧品用保湿剤として有用な乳酸ナトリウム、ピロリン酸ナ  
トリウムなどのような有機アルカリ金属塩類も  
良好な凝固剤として使用できる。これら電解質の配合量は  
0.1~10%であるが、好ましくは0.5~5%がよい。

以上のようにして得られた水性ゲル状基剤に他の有用な配  
合成分、例えば、化粧品の有効成分、香料、色素などを加えて製品化すること

用される化粧品のpH値4〜5で重めて安定なゲル状を呈し、  
皮膚に塗布した際、刺激は全くなく、使用感、展着性もよく  
従来品の欠点を克服し得た化粧料を作ることができる。  
次に本発明、水性ゲル状化粧料の処方例を示す。

配合割合は重量部である。

#### 実施例1

A	デオキシリボ核酸カリウム	3.5
	塩化ナトリウム	0.5
	精製水	45.5
B	水溶性コラーゲンタン白	1.0
	アミノ酸	0.2
	防腐剤	適量
	香料	適量
	エタノール	2.0
	精製水	残余

デオキシリボ核酸カリウムをA成分の精製水に加え加温攪拌して溶解し、これに塩化ナトリウムを加えて均一に溶解させる。B成分を混合溶解した水溶液を作り、両者を同時均一に混合し、放冷すると微黄色透明でpH5の安定なゲル状化粧料が得られる。

パネルテストの結果、刺激がなく使用感のよい基礎化粧料としての評価が得られた。

#### 実施例2

A	デオキシリボ核酸ナトリウム	5.0
	乳酸ナトリウム(50%)	5.0
	精製水	40.0

B	香料の醇系分解抽出液	20.0
	防腐剤	適量
	香料	適量
	エタノール	2.0
	精製水	残余

実施例1と同様にして透明なゲル状化粧料が得られる。

パネルテストの結果では、刺激がなく使用感のよい保湿性の高い化粧料としての評価が得られた。

#### 実施例3

A	デオキシリボ核酸カリウム	5.0
	ニコリドンカルボン酸ナトリウム塩(50%)	3.0
	精製水	40.0
B	植物水性抽出液	1.0
	防腐剤	適量
	香料	適量
	プロピレングリコール	5.0
	水溶性染料	適量
	精製水	残余

実施例1と同様にして透明なゲル状化粧料が得られる。

パネルテストの結果では、刺激がなく使用感のよい化粧料としての評価が得られた。

特許出願人

株式会社リモブランプロダクツ

代表取締役 山本 寛